

体験交流は農山漁村を未来へつなぐ

和歌山県推薦 都市農村交流アドバイザー（分野：観光交流）
奥山 沢美（一般社団法人南紀州交流公社 理事長）

1 取組概要

平成16年10月（2004年）、当時の日置川町において寂しくなっていく町を何とかしなければと行政と住民が力を合わせ、賛同してくれる町内の各種団体や企業・個人が会員となり町づくり協議会「大好き日置川の会」を設立し、町の活性化に向けて一歩を踏み出しました。

当初より、ボランティア活動だけでは地域の活性化ははかれない、地域振興に繋がらないとの認識から、地域外からお客様に来て頂き、モノやコトの消費により経済を循環させる事が地域振興の基本であると考え、和歌山県が推進していた「ほんまもん体験」の受入れにより交流人口の拡大をはかる事を目指しました。

新しいマーケットであり、地域の人たちになじみやすい教育旅行という分野に的をしぼり、小中高等学校の宿泊体験活動や修学旅行などで要望の多い民泊（農山漁村生活体験）での受入れも決めました。

パンフレットを制作し、旅行会社への営業活動と受入れ体制の整備を同時にすすめ、安全で教育効果の高い受入れ実施のため研修を重ね、初年度は小中学校合わせて7校の受入れが実現しました。

当初の不安は大きな充実感に変わり、日頃ほとんど接する機会がない若者との交流に目覚め、若者が持つエネルギーは地域に活力を与え、私たちに出来る取組みは体験交流、これしかない！と確信しました。

事業を拡大し継続させていくためには、地域を熟知し顔の変わらないコーディネーターがいるコーディネート組織が不可欠であり、日置川流域の中心部、白浜町安居に事務所を設置、また、旅行会社と委託契約を結びスムーズな受入れ実施をはかるために協議会を法人化しなければならなくなり、慣れ親しんだ「大好き日置川の会」を発展的に解消し、平成23年（2011年）4月1日、一般社団法人南紀州交流公社を設立しました。

日置川地域で始めた事業ですが、平成18年の合併により白浜町全域での取り組みとなり、現在はすさみ町、上富田町にもご協力いただき広域で民泊協力家庭を募り体験交流事業を実施できるようになりました。

平成16年、交流人口0人で始まりましたが、令和5年4,300人（見込み）となり、コロナ禍以前にもどりつつあります。交流人口の増加に伴い経済波及効果も高まり、南紀州交流公社の一員であることが誇りに思えるような組織になっていければと思っています。

2 取組前の地域の状況

古くから木材の町として栄えた旧日置川町は、最盛期には1万人の人口を数えましたが、農林水産業の衰退と共に平成16年には4,700人に半減し、過疎高齢化がすすみ活気が失われつつあり我が町を誇りに思えなくなっていました。

3 具体的なアドバイス内容

地域振興事業というのは効率や利益を第一に求めるものではないため、行政に理解をして頂き応援や援助をして頂くことは重要だと思います。又、地域の活性化という大きな目標をかかげ住民が同じ目標に向かって取り組むことが大切です。

4 地域の変化

体験交流事業は地域に経済的効果と精神的効果をもたらしてくれています。その上、高齢者の皆さんが若くて元気であり、来て頂いた生徒や先生方との交流により、私たちの住んでいる地域がいかに豊かな自然に恵まれ心豊かに暮らしているかに気づき、改めて地域を誇りに思えるようになり、地域間交流も生まれています。

5 取組みの効果と地域が変化するために必要なこと

思い続け、やり続けることが大切。

同じ思いをもつ仲間がいてこそ大きな力となり、地域力が高まっていく。

6 アドバイザー自身のPR

どこに行っても年長者の類になりましたが、地方では多くの高齢者が現役で活躍中です。活動を始めた平成16年ごろ、やらなければ！という使命感に燃え、その後、やるからには結果を出したい！と思い、そして、こんな良い事業は継続しなければ！との思いになり現在に至っています。思いを共有できる仲間がいたから続けてこられたと感謝しています。

人生は巡り合わせの連続であり、一つの出会いが大きな成果をもたらすものです。

振り返ると、あの時の出会い、あの決断がチャンスをつくり、あの一言でチャンスを手に入れることができたと思う事が節目節目にありました。

体験交流事業を始めてからは、学校の先生方、児童生徒の皆さん、旅行会社や関係者の皆さんそして協力してくれる仲間たちとたくさんの出会いがあり、互いによい影響を与え合っていればうれしいし、これからも努力しそうありたいと願っています。特にこれからの日本、世界を背負って立つ児童生徒の皆さんの健全育成に少しでもお役に立つことができればこれ以上の幸せはないと思っています。

20年が過ぎ少子高齢化、人口減少は国全体の大きな問題となりました。地方に住む私たちは都市と農村の交流によりお互いを理解し高めあい、この地域に住んでよかった、この事業にかかわってよかったと思える町づくりを目指したいと思います。

